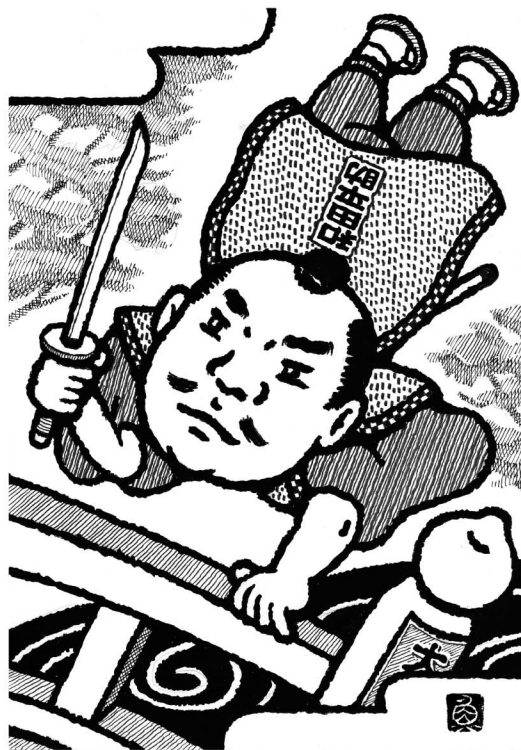


「不飲ケ沢」が「沼津ケ沢」に

のまずのさわ

ぬまずがさわ

水戸の剣豪 和田平助の遺構跡・沼津ケ沢不動院(水戸市)



水戸藩成立後、水戸光圀に仕えた有名な剣の名人がおりました。その名は和田平助(正勝)と言います。彼は居合抜きの達人で、光圀公に重用されました。

ある日、光圀公に大手橋の欄干を歩いてみよ、と言われ歩いてみると光圀公に突き落とされてしまいます。しかし、彼はひらりと舞い降りて、傷一つ負いませんでした。光圀公に「お前が突き落とされるのは隙があるのではないか」と問われると、平助は「殿の衣の裾をご覧ください」と言います。裾を調べた光圀公はそこに小柄が刺してあって、もし危害を加える気持ちがあつたら、殺されるとこだったと感服しました。

しかし、平助は同僚の家臣の相続争いに巻き込まれ、水戸を追われることとなります。平助が水戸の外れの中根寺に着いたところで藩の役人に追いつかれ、手傷を負ってしまいます。水戸へ連れ戻される途中にきれいな水の流れる沢がありました。平助はそこで「水が飲みたい」と願い出るので、水を飲むことが出来ず、ついに命が果ててしまいます。

その跡地に名づけられたのが「不飲ケ沢」という地名です。その地には現在も不動院がまつられていますが、現在は「沼津ケ沢」という名前に変わってしまっています。

それがどう変わったのかは不明ですが、地域の住民たちが縁起を担いだ結果でしょうか？水戸に沼津の地名が残る貴重な史跡です。

現在、水戸市内には和田平助を忍ぶことのできるのは中根寺やこの沼津ケ沢不動尊のほかには神應寺の墓碑などがあります。お寺の中なのに鳥居があり、かつては水戸の色町・大工町の衆も参拝したそうです。なぜならその名前をひっくり返すと「すけべいだわー」と言うことらしいです。

しかし、水戸の剣豪・和田平助の技は、新田宮流として水戸東武館の無形文化財に指定され後世に引き継がれることになりました。

〈参考文献〉「江戸時代 水戸を語る」(前田香登著)ほか



【所在地・アクセス】沼津ケ沢不動院／水戸市東原1丁目2周辺(茨城県東町スポーツセンターそば)
中根寺／水戸市加倉井町595(常磐自動車道・水戸IC出口隣)

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>